

平成26年度 学校関係者評価報告書

大阪市立十三小学校 学校協議会

1 総括についての評価

学校長より説明を受ける。採決の結果、参加者全員が本年度の自己評価結果は妥当であると承認する。

学校の取組は十分評価できるものであり、その成果も具体的に示されていた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

- ① 平成26年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を20%以内にする。
・国A…3%、国B…10%、算A…1%、算B…3% (4.25%) (カリキュラム改革関連)
- ② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を70%以上にする。
(診断テスト…78%、単元テスト…81%) (カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。 (90%) (カリキュラム改革関連)

- 達成状況の評価は妥当である。

全国学力・学習状況調査や学力到達度診断、単元末評価問題を丁寧に分析している。また、7月と1月に子どもや保護者にアンケートを実施し、成果と課題を明らかにして学級懇談会などでも保護者に丁寧に説明している。

学力向上委員会を立ち上げ、全教職員が共通理解のもと、組織的に学力向上の取組を開始したことも評価できる。

年度目標：健康・体力の保持増進

- ① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。
(91) % (カリキュラム改革関連)
- ② 食に関する知識を広め、食への興味・関心を高めるために全学年で「食育」に関する授業研究を実施し、学校アンケートで「食を楽しく学ぶことができた」と答える児童を80%以上にする。
(96) % (カリキュラム改革関連)
(平成26年度は、区教員研究発表会。大阪市小学校教員発表会)
(平成27年度は、食育の授業参観、講演会を実施)
- ③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン（持久力）」の平均記録において、全国平均を上回る児童の割合を75%以上にする。
(42) % (カリキュラム改革関連)
- 学校は、「20mシャトルラン」の目標が達成できていないため、厳しくBをつけているが、歯磨き・食育の取組が共に目標を大きく上回っているのでAが妥当である。

①では、「十三五か条の心得（ザ・給食編）」や「給食タイマー」、きら・ピカウイークなどの取組により、歯磨きの習慣がついている。家庭でも歯磨きをするよう声掛けをしていきたい。

②は、2年間の食育の取組で、子どもたちはずいぶん食に関心をもち、家でも食についての話や調理のお手伝いをするようになってきている。十三ふれあい農園の取組により、野菜嫌いな子が野菜を食べられるようになったとの報告を聞き、何よりの成果だと考える。

③の「20mシャトルラン」は、急に成果が出るようなものではないので、今後、総合的な体力面での育成を図るようにしていく。

年度目標：道徳心・社会性の育成

① 学校アンケートにおける「自分のことが好きですか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。 (81%)% (カリキュラム改革関連)

② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。 (85%)% (カリキュラム改革関連)

③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。 (87%)% (カリキュラム改革関連)

○ 学校より、アンケート結果を具体的に示しながら説明があり、採決の結果、達成状況の評価は妥当であると考える。いじめについても、年3回のいじめアンケートが早期発見と抑止力になっていることがわかった。

【視点 学校・地域の連携】

① 学校教育に関わる取り組みへの家庭・地域の参加者数を、年間300人以上にする。
2月5日現在 (642) 人 (ガバナンス改革関連)

② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を80%以上にする。
(保護者アンケートにより検証する) (96%)% (ガバナンス改革関連)

○ 達成状況の評価は妥当であると考える。
家庭・地域の参加者も600名を超え、上限に来ていると思う。
情報発信も積極的に行われており、学校ホームページの内容も充実している。

3 今後の学校運営についての意見

○ 次年度も教育活動の充実に努めてほしい。